



岡本太郎「顔」



棟方志功「光明妃柵」



風間完「角川源義肖像」

- 〔登録年月日〕 令和二年二月一〇日
- 〔種別〕 登録有形文化財（歴史資料）
- 〔名称〕 角川源義所藏美術資料
- 〔点数〕 二六点
- 〔所有者等〕 杉並区教育委員会
- 〔所在地等〕 大宮一―二〇―八（郷土博物館）

角川源義所蔵美術資料

げんよし

昭和期の俳人・国文学者で、角川書店を創設した実業家・角川源義（大正六（一九一七）年～昭和五十（一九七五）年）が、杉並の自宅（国登録有形文化財《幻戲山房（旧角川家住宅主屋）》）に所蔵していた美術資料であり、総数は二十六点である。

本資料には、日本近現代美術史上に名をとどめる武者小路実篤、梅原龍三郎、岸田劉生、長谷川利行、高田博厚、棟方志功、岡本太郎らの作品が含まれ、美術コレクションとして充実したものと見え、源義の文学者、出版人としての性格が色濃く反映したものとなっている。長谷川利行、岡本太郎など、文学や出版文化に接点をもつ美術家の作品が多いことは、直接間接を問わず源義との人的交流を介した蒐集によるものと解され、そのことが本資料の大きな特徴となっている。

角川源義所蔵美術資料は、作品の美術的価値に重きを置く一般的な美術コレクションとは性格を異にし、自ら文芸活動に従事した希代の実業家・角川源義の人的環境を映し出す人物史的資料としての性格が色濃い。よって本資料は、文学者で実業家でもあった角川源義を軸に、文学と美術がなお親近

【文化財旧所在地】幻戲山房（旧角川家住宅主屋）



性を保っていた昭和という時代の文化的様相を示す、重要な資料と位置付けられる。